

河川の連携・地域をつなぐ明日への水 思川開発

思川だより

令和2年1月23日 第71号

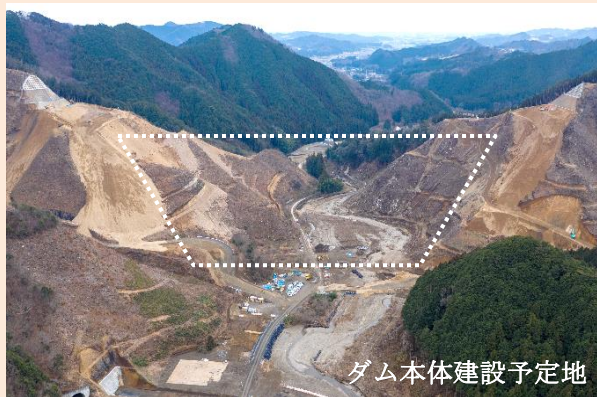
明けましておめでとうございます。本年も宜しくお願い申し上げます。

工事の状況

工事の状況は思川開発建設所HPからもご覧いただけます。
<http://www.water.go.jp/kanto/omoigawa/kouji/index.htm>

令和2年1月現在、当建設所では付替県道・林道の新設工事11件、ダム本体の準備工事2件、導水施設工事2件を施工しています。

ダム本体の準備工事の1つである「南摩ダムダムサイト敷地造成工事」では、ダム本体建設予定地両岸の山をダム天端標高まで掘削するとともに、ダム本体工事をスムーズに進めるための作業ヤードを整備しています。工事は、山頂からダム天端標高に向かって、下の写真の作業(①～④)を繰り返し、階段状に法面を仕上げていくところです。



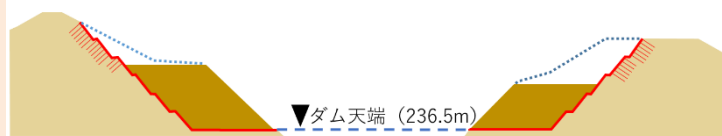
ダム本体建設予定地
ダムサイト上流からの眺望(1月中旬時点)



左岸



右岸



▼ダム天端 (236.5m)
工事進捗イメージ(1月中旬時点)



「①掘削」→「②法面整形」



「③鉄筋挿入」



「④法枠設置・吹付」

また、昨年11月には思川開発導水路工事を、同年12月には思川開発送水路工事をそれぞれ契約しました。現在、工事の本格的な実施に向けた準備を行っています。

当建設所では、引き続き、環境対策や工事車両の通行などの安全対策に万全を期して参りますので、思川開発事業へのご理解とご協力のほど、よろしくお願い致します。

＜洪水浸水想定区域図・洪水ハザードマップ＞

国土交通省及び都道府県では、洪水予報河川及び水位周知河川に指定した河川について、洪水時の円滑かつ迅速な避難を確保し、又は浸水を防止することにより、水害による被害の軽減を図るため、想定し得る最大規模の降雨により当該河川が氾濫した場合に浸水が想定される区域を洪水浸水想定区域として指定し、指定の区域及び浸水した場合に想定される水深、浸水継続時間を洪水浸水想定区域図として公表しています。

一方、市町村では、浸水想定区域をその区域に含む市町村の長は、洪水浸水想定区域図に洪水予報等の伝達方法、避難場所その他洪水時の円滑かつ迅速な避難の確保を図るために必要な事項等を記載した洪水ハザードマップを作成し、印刷物の配布やインターネット等により、住民の方々に周知しています。

洪水予報河川・水位周知河川の指定状況（H31.3末時点）

	洪水予報河川（※1）	水位周知河川（※2）
国管理河川	109水系 298河川	63水系 150河川
都道府県管理河川	65水系 128河川	673水系（※3） 1,499河川
合 計	426河川	1,649河川

国民経済上重大な損害又は相当な損害を生じるおそれのある河川のうち

（※1）洪水予報指定河川：水位等の予測が技術的に可能な流域面積が大きい河川

（※2）水位周知河川：洪水予報河川以外の河川のうち、流域面積が小さく、洪水予報を行う時間的余裕がない河川で、特別警戒水位（氾濫危険水位）を定めて、この水位に到達した旨の情報を出す河川

（※3）水位周知河川における補助河川の水係数は、各県ごとの水係数をそのまま合計している

ハザードマップポータルサイト：<http://disaportal.gsi.go.jp/>
各説明文は国土交通省のHPより引用・編集

環境保全の取組について

11月29日（金）に、機構職員・工事関係者計50名が参加し、「環境学習会」を開催しました。この学習会は、ダム建設事業における環境保全の取組みの一環として、毎年開催しているものです。当日は、山梨大学教育学部宮崎淳一教授を講師としてお招きし、生物の多様性の重要性や、当事業地内に生息するホトケドジョウの生態に関するご講演をいただきました。生物の多様性に関するご講演の中では、地球が誕生して今までに5度の生物大量絶滅があり、今まさに6度目の大量絶滅が起きているという状況で、100種/年のペースで種が減少し、その原因が人間の社会活動にあるとの衝撃的なお話がありました。また、ホトケドジョウの進化の歴史を辿ることで、日本列島の地形発達史が明らかになることなど、100万年以上前のことを現存する生物から読み取る面白さを伝えていただきました。

ご講演終盤に、「なぜ生物多様性を守らなければならないのか？」との宮崎教授からの問いかけに対し、参加者一人一人が改めて環境保全の重要性について考えさせられる貴重な時間となりました。



前号にも登場したホトケドジョウ



講演を聞き入る参加者



ご講演いただいた宮崎教授

教育機関を対象とした現場見学会を開催しました

11月29日(金)、栃木県立真岡工業高等学校の生徒の方々を対象に、南摩ダム建設予定地で現場見学会を開催しました。

教育機関等を対象とした現場見学会は、若手人材育成の一環として、栃木県及び鹿沼市と思川開発建設所が協働で開催しているものです。

当日は、当事務所会議室にて、とちぎ県政出前講座として、県職員の方から、ダムの働きや県が管理するダムの特徴などについて講義を頂き、続いて、当建設所の職員が思川開発事業の概要や南摩ダム建設の状況などについて説明しました。その後、南摩ダム建設予定地に場所を移し、工事の状況等を見学頂きました。寒空の下での現場見学会となりましたが、幸い天候にも恵まれ、参加された生徒の方々も、滅多に見ることのできないダムの建設現場に興味津々に見学されていました。

見学会後には、「卒業後の進路を考える上で、大変有意義な時間となりました」との感想をいただきました。教育機関を対象とした現場見学会については、随時、受け付けていますので、当建設所ホームページ等をご確認下さい。



ダムサイト展望台での概要説明の様子



ダムサイト下流で記念撮影



再発見！鹿沼の魅力（第15回） 千葉県三記念館

今回は、千葉県三記念館を紹介いたします。千葉県三は、大正、昭和を代表する児童文学作家で、宇都宮市で生まれ、父が楡木（にれぎ）の小学校の校長になったときに前任地の今市から楡木へ引っ越し、6歳から21歳で上京するまでの15年間をこの地で過ごしました。ここでの日々の生活や人々の暮らしぶり、豊かな自然などを題材にした作品をその後、数多く創作しました。



記念館は、東武線の楡木駅から徒歩5分ほどにあり、コミュニティセンターと併設されています。彼の作品のうち「虎ちゃんの日記」「鷹の巣とり」は、国語の教科書にも掲載されていたため、作品を読んだことのある方もいらっしゃるのではないのでしょうか。

彼の作品は、村の子どもたちの生活をのびのびと描いたものが多く、一連の作品は、読んだ者をほのぼのとさせてくれるものばかりです。

展示室の隣の図書室では多くの作品が揃えてありますので、それらの作品をいくつか読み、童心にかえって物語の舞台の中を散策されてみてはいかがでしょうか。

（参考 鹿沼市 HP：<https://www.city.kanuma.tochigi.jp/0313/info-0000005543-0.html>）

思川散策

＜思わず行きたくなる思川＞を発見する「思川散策」
今回は栃木県栃木市の小倉川かつば広場をピックアップ



思川とかつば伝説 小倉川かつば広場

今回は、栃木市西方町の思川の河川敷にある小倉川かつば広場を紹介します。この広場には、名前の由来となった思川とかつばにまつわる伝説があります。昔、思川（小倉川）は清瀬川と呼ばれていました。その頃は橋がかかっておらず、地域の人々や旅人たちが歩いて川を渡ろうとすると、かつばがあらわれて人々にいたずらをしていました。ある日、おぐらしのぜんすけ小倉主膳介というお侍が川を渡ろうとすると、いつものようにかつばがいたずらをしました。豪傑として名高い主膳介はかつばを捕まえ、切り捨てようと思いました。すると、かつばは「命だけは助けてほしい」と謝ったので、主膳介は「俺は小倉という者だ。川を渡る者から小倉の名を聞いたら、いたずらするな。」と言い含め、かつばを許しました。その後、旅人が「俺は小倉だ。」と言いながら川を渡ると、かつばがあらわれなくなり、このことから小倉川と呼ぶようになりました。



小倉川かつば広場では、思川を身近にアクティビティができ、遠くには男体山をはじめとした日光の山々、春には満開の桜並木が見え、四季折々の思川の風景を楽しめます。

下野から見たより

栃木県内の地元かるたを用いて、
様々な歴史・文物を紹介するこのコーナー。
引き続き、『しもつけ下野かるた』（栃木県文化協会発行）からの紹介です。

く ふるさとの味 しもつかれ >

しもつかれとは栃木県を代表する郷土料理です。県内各地で呼び方が異なり、「しもつかれ」の他に「しもつかり」「しみつかれ」などとも呼ばれます。ダイコンとニンジン「鬼おろし」でおろし、節分の残りの大豆、塩サケの頭、油あげ、酒カスを加えて煮込みます。はつうま初午の日につくり、稲荷様にお供えします。栄養があって消化もよく、赤飯にもよく合います。



編集後記

明けましておめでとうございます。年末年始はいかがお過ごしでしたでしょうか？私は年末に風邪をひき、寝正月となっていました。

まだまだ寒さが厳しいですが、くれぐれもご自愛くださいませ。

本年もよろしくお願いいたします。

お知らせ

▼思川開発建設所では、随時、現場をご案内いたします！詳しくはお電話またはHPをご覧ください！

▼「思川だより」に関するご意見・ご要望を募集しています！お気軽に下記連絡先までお寄せ下さい！

編集・発行



独立行政法人水資源機構 思川開発建設所

〒322-0305 栃木県鹿沼市口栗野 839-2

Tel (0289) 85-1110 Fax (0289) 85-1211

<http://www.water.go.jp/kanto/omoigawa/index.htm>

思川開発

検索

